

やまぐち有機

「山口市有機農業推進協議会」発足

「山口市有機農業推進協議会」が平成 29 年 11 月 4 日に発足しました

昨年の8月以来、14回にわたって協議を重ね、やっと平成 29 年 11 月 4日に設立総会を開催し、「山口市有機農業推進協議会」を発足することができました。この協議会は、「山口市有機農業推進計画」に基づく事業を、民間と行政とが協力しながら、山口市における有機農業の推進を図ることを目的としています。

総会では出席者から様々な意見が出されました。また入会時に実施したアンケートへも多くの意見が寄せられました。協議会への期待の高さによるものと考えられます。その中から、いくつか列記させていただきます。

- ・有機農業の表示が曖昧であり、有機農業では農薬や化学肥料を使わないことを明確に記述すべきではないか
- ・有機農業の生産、販売の促進についてどのような規模で進めるのか
- ・市の有機農業推進計画の考えについて聞きたい
- ・JAの団体加入を要請すべきではないか
- ・役員 of 居住地や経歴、選出基準もわからない
- ・役員 of 連絡先を教えてもらいたい
- ・若い役員がいない。このような状態で協議会の運営や事業の実施ができるのか
- ・総会が開かれ前向きに進むことができ良かった。意見を汲み上げ進めてほしい
- ・有機農法の取組事例を多く紹介してほしい
- ・有機栽培も大事だが、栽培作物を消費者と一緒に料理消費会などにも取り組んでほしい

- ・山口で暮らすなら、山口で育った品種を山口のやり方で育てたい
 - ・種や苗が見つからず困っている
 - ・市が有機農業を推進することは大変意義がある
 - ・山口市が有機農業の推進からエコタウンへと、またオーガニックシティへと進んでいくことを願う
- そのほか、規約など協議会の運営についても、有用な意見が寄せられました。皆さんの積極的なご協力に感謝させていただきます。

11月4日の設立総会を受けて、去る12月6日、市役所・会議室棟1階・会議室Cにおいて、第1回の役員会を開催しました。残念ながら14名の役員のうち7名の出席しかありませんでしたが、総会で様々な意見が出たことも受けて、設立総会を受けての対応、平成 29 年度事業の実施などについて協議させていただきました。発足したばかりでもあり当面は、原案どおりで進めることとし、役員名簿についても、地域名、農業者・消費者の別を公表する程度とすることにしました。

今後とも、ご理解とご協力をお願いします。

【文責：東孝次】



発足記念講演会を開催

中島先生を迎え「有機農業がめざすもの—その夢と道すじ」と題する講演会を開催しました

発足記念講演会として、茨城県より中島先生をお迎えし、「有機農業がめざすもの—その夢と道すじ」と題する講演をしていただきました。



右の写真はなんととお思いでしょうか。木戸さんが栽培される稲の根のそうです。稲の根が65cm下層まで伸び、土壌中の鉄が酸化して赤褐色の沈着(斑鉄)が多く発生しているそうです。驚きの写真です。先生はご自分の圃場での実践や総会で出された話題にも触れていただき、予定時刻を大幅に遅れたにも関わらず、嫌な顔もされず適切に対応していただきました。先生は「土と作物の力を引き出していのちの営みを作ろう」と呼びかけられたのです。農業は幅が広いし、人によって直面している問題も多様で、関心もいろいろであることから様々なお話に言及していただきました。先生のお話は、「自然の中でのいのちの営みとして農業を捉えてみたらどうだろうか」という問題提起でした。講演を聞かれた皆さんは、どのようにお感じになられたでしょうか。ご感想のある方は、ぜひ事務局までお知らせください。



木戸さんの稲の根に感激した私は、早速、先生に「木戸さんのような稲と田んぼはどうしたら実現できるのか。その

ための技術的道筋はどんなことなのか。それを知りたい」と質問させていただきました。先生からご返事は次のとおりです。

A: 農業はそんな風に、構想と計画、設計図に基づいて進むものではない。そのことに気づいていただきたいなと思います。木戸さんはこういう稲を構想して、そこに向かって一歩ずつ進んでこられたという訳ではないようです。

稲と田んぼを見つめて、悪戦苦闘。一途に進んできた結果として、お示したような稲と田んぼができてきたということ。それはいわば予期せぬ、あるいは偶然としての結果だった。でもそれは例外的な結果ではなく、そこにはある種の一般性、あるいは道筋もあるのかも知れない。それは資材に依存せず、稲と田んぼのいのちに寄り添おうとする姿勢だった。

そんなところかなと思います。ここが設計図のある工業といのちの営みとしての農業の決定的な違いですね。それは人の人生、人の成長、人の一生と似ているかも知れません。人生、成長、一生には設計図はない。人はそれぞれ生きていく。そこに英才教育、天才への設計図を持ち込んでも意味がない。



農学は理論ではなく、まずは経験であり、状況認識であり、それを取り込む人の意思と姿勢、志とセンスだと思います。だから本当の農学は実に個性的なのですね。それは科学とは違うというのが私の考えです。

優れた取り組みと出合ったときに何より大切なことは、まずは感動でしょう。それを真似するというのではなく、その出会いを喜びとして、その感動を時々思い出すということなのだと思います。

皆さんの方で、先生へご質問等がある人は、お寄せください。私の方で連絡させていただきます。

【文責: 東孝次】

入会時アンケートの結果報告

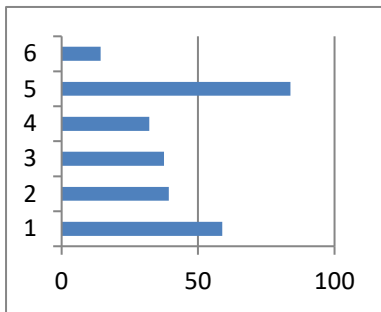
平成 28 年2月にもアンケート調査を実施させていただきましたが、会員の声や実態を把握し、併せて入会されない理由なども明らかにし、今後の活動に活かしたいと考え、正式に入会募集をするに当たって、アンケート調査を実施させていただきました。設立総会前の平成 29 年 11 月3日までにご回答いただいた結果に基づいて整理しています。

対象者は、市内の有機農業関連の団体に所属している人や平成 29 年2月 26 日に開催した講演会参加者の 名のうち 83 人の人から回答がありました。うち入会された人は 67 人で、入会しないと回答のあった人は 14 人、未記入は2人でした。

入会者の属性を尋ねたところ、「農業者」(73.1%)、「加工・調理業者」(4.5%)、「販売店・流通業者」(6.0%)、「消費者」(16.4%)で、4分の3近くが農業者となっています。

入会された農業者の人にお尋ねした項目のうち、「入会の理由」、「販売方法」について報告します。

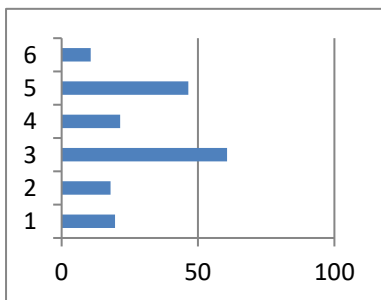
まず「入会の理由」についてです。「複数回答可」でお願いしました。最も多かったのは、「5 有機農業を推進すべきと考えるから」が



「1 有機農法の技術講習や圃場の見学交流会などやってほしいから」が 59%、「2 農産物の販売について、店舗や流通に係わる仕組みづくりに期待するから」39%、「3 消費者への理解促進や販売などのイベント企画をやってほしいから」37%、「4 農産物の販売先を確保したいから」32%でした。

その他の回答としては、「安全でもっとおいしい野菜を作り販売したい」、「土質によって生産物の内容成分が大きく違うことを知らせたい」などがありました。有機農業そのものの推進と有機農業技術の交流、有機農業による農産物の販売促進、消費者との交流などに、大きな期待が寄せられています。

続いて「販売方法」についてです。ここでも「複数回答可」でお願いしています。最も多かったのは、「3 直売店に自分で出荷している」が 61%で、続いて「5 自家利用として



「1 ネットなどを利用して、個人で販売している」、「4 J A(農協)に出荷している」20%、「2 スーパーなどの店舗と契約して、出荷している」18%でした。

「2 スーパーなどの店舗と契約して、出荷している」18%でした。

入会しないと回答のあった人に対してその理由をお尋ねしました。入会されない人の2割程度は、「生産する農産物のほとんどが販売できているから」、「有機農業の推進は難しいと考えるから」ということでした。そのほか、「近いうち生産をやめる予定だから」、「家庭菜園なら有機農業も可能であるが、生業とするならメリットがないため、有機農業は趣味の世界と考えるから」、「自家用で作っているため販売しないから」、「生産、販売するほど作っていない。後継者がいないから」、「親の介護で時間がないから」、「山口市から出るから」、「家族が入会しているから」といった理由が挙げられました。

最後に本協議会に対するご質問やご要望等を伺いました。様々な意見等が寄せられました。

「市が有機農業を推進することは大変意義がある」といった励ましの言葉や「山口はオーガニックを売りに日本に山口ありと言わしめてほしい」、「山口市が有機農業の推進からエコタウンへと、又、オーガニックシティへと進んでいくことを願う」といった、当協議会への期待も寄せられました。

「有機農法の取組事例を多く紹介してほしい」、「有機栽培も大事だが、栽培作物を消費者と一緒に料理消費会などにも取り組んでほしい」、「どれだけ食べれば必要な成分が確保できるか量等消費者が分かりやすく判断できる管理栄養士を介したセミナーの開催」、「耕作放棄地の案内等希望(山口、佐山)」、「山口で暮らすなら、山口で育った品種を山口のやり方で育てたい。種や苗が見つからず困っている」、「政府機関の有機農産物と JAS 農産物の内容成分を消費者や生産者に資料提供してほしい」、「農薬を使用せず有機肥料を使用して栽培していることを消費者に知ってほしい」、「有機農業の技術開発を進める。(例:IT ロボットによる除草機の開発)」、「旧市町単位に有機農産物を販売する」、「店数を増やし消費者と生産者のネットワーク構築を図るべき」といった、協議会の実施すべき事業に対する提案やヒントもありました。

さらに、規約に対する有用なご意見も多数寄せられ、事務局体制の脆弱さを指摘するに対する厳しい意見もありました。

そのほか、「環境・健康を考え、有機栽培が当たり前の中になってほしい」、「環境にやさしい農業や自給自足を推進したい」、「もう少しJAも勉強してほしい」、「慣行農法一辺倒のJAの有機農業への意識改革」、「山口市での登録認定機関の設立を強く望む」といった意見も寄せられました。

【文責:東孝次】

「第1回オーガニックフェアうべ」に参加

2017年12月9日「宇部市ときわ湖水ホール」で開催された「第1回オーガニックフェアうべ」に参加してきました

有機農業を通じて、食や健康、環境、自然を大切に、生産者と消費者を結び付けるために、「第1回オーガニックフェアうべ」が、宇部市と「有機ネット山口西部」の主催で開催されました。会場内で



は開会前から「Marche」は開かれており、農産物や物品の販売が行なわれており、参加者は思い思いに買い物をされていました。午前10時からオープニングセレモニーが開かれ、正式に「第1回オーガニックフェアうべ」が開催されました。

10時20分からは別の部屋で、林重孝 NPO 法人日本有機農業研究会副理事長による講演が行なわれました。「プロ有機農業家が語る！『誰でもできるもっとおいしい野菜の作り方』—有機栽培の秘訣・コツ・技—」と題するお話で、とても役に立つ具体的な内容でした。林講師は大学を卒業後、

家業である農業を継がれます。篤農家と言われていたほどの農家だったのですが、見かけをよくするため収穫された作物を化学薬品で洗うことに大きな疑問を持たれ、有機農業の世界へと一步を踏まれます。しかしその道のりは険しく、周囲の厳しい目にさらされながら信念を曲げずに、有機農業の道を進んでこられたのだそうです。



林講師のお話はとても分かり易いものでした。土づくりが基本だという話に始まり、適期栽培、輪作、混作、多品目、環境にやさしい防除法といった栽培法について、さらに堆肥作り、最後には林流トマト栽培法についてご紹介されました。

そのほかフェアの行事としては、しめ縄作りのワークショップや野菜つりゲーム、DVD上映会などが開催されました。



【文責：東孝次】

原稿・意見・感想等を募集中

皆さんからの原稿や意見・感想などを募集しています。奮って事務局までお寄せください。

皆さんで充実した内容にしていましょ！

山口市有機農業推進協議会

【事務局】

山口市農林政策課 TEL:083-934-2817 FAX:083-934-2651 E-mail:n-seisaku@city.yamaguchi.lg.jp